

Electoral Discrimination, Party Rationale, and the Underrepresentation of Immigrant-Origin Politicians

選挙差別、政党の合理性、移民出身政治家の過小代表

D Auer, L Portmann, T Tichelbaecker

American Journal of Political Science, 2023

概要：

移民をはじめとするマイノリティは、欧米のほとんどの民主主義国家において、政治に占める割合が低い。この論文は、有権者の行動に基づいて候補者擁立戦略を更新する、戦略的に行動する政党のゲートキーパーが、この代表格差の一因になっていると主張する。スイスの地方選挙で得られたユニークなパネルデータを用いて、「外国人っぽい」名前の候補者は、ネイティブの候補者に比べて、組織的に得票数が少ないだけでなく、有望な候補者リストに掲載されることも少ないことを発見した。選挙をまたいで候補者を追跡し、この不平等が以前の選挙における有権者の差別によって引き起こされることを示す。本研究は、選挙プロセスの様々な段階を関連付け、政党が候補者のパフォーマンス情報を利用することによって間接的に差別を行うことを示すことで、マイノリティ候補者に関する研究に関連性を持たせている。また、政党が選挙プロセスにおける差別の連鎖をどのように断ち切ることができるかという道筋を指し示すという、実地的な意味合いも持っている。

一．選挙差別と政党行動

政治的な代表者不足の有力な説明は、有権者がマイノリティ候補者を差別するというものである。しかし、有権者による差別の証拠を発見した研究（McDermott 1998; Sigelman et al. 1995）もあれば、有権者がマイノリティの選挙機会を低下させなくなったことを示唆する最近の研究も増えている（Hood and McKee 2015; Juenke and Shah 2016）。

移民出身者に対する差別は、政党の推薦戦略やそのような候補者に対する支持の欠如からも生じている可能性がある（Fraga and Hassell 2021; Hassell and Visalvanich 2019）。政党は重要なゲートキーパーであり、候補者のリクルートと推薦戦略を通じて政治家へのアクセスに影響を与える。さらに、支持を提供したり、影響力のある政治的アクターやメディアとの接点を与えたりすることで、候補者の選挙チャンスに影響を与えることができる（Hassell and Visalvanich 2019; Juenke and

Shah 2016; Ocampo and Ray 2019)。党内ダイナミクスや候補者選出手続きがマイノリティの（代表性不足に）寄与しているかどうか、またどのように寄与しているかは、最近になってようやく文献で注目されるようになった（Bateson 2020; Dancygier 2017; Hassell and Visalvanich 2019）。

本研究は、マイノリティ候補者に対する有権者の態度と政党の指名戦略が政治的代表に与える影響を分析する。政党は投票最大化を目指し、マイノリティ候補擁立の機会費用を評価するが、有権者の敵対的態度や選挙区の人口構成（例：移民割合）が戦略に影響を及ぼす。また、不完全な情報に基づく政党の判断が間接差別を引き起こす可能性があり、特に過去の選挙結果に基づく偏った情報更新が問題となる。信念の修正や有権者態度の再評価が偏見克服の手段となり得るため、政党戦略の形成においてこれらを考慮する必要がある。

二. 背景

(1) チューリヒ州選挙

スイスのほとんどの自治体では、選挙権を持つ市民がタウンミーティングで政策的意見を表明し、立法問題を決定するのに対し、人口の多い自治体では、定期的に議会が選出される。チューリヒ州では、13 のコミューンで議会が開催されている。

市町村議会の選挙では、地元の政党幹部が候補者を推薦し、投票先を決定する（Vatter 2014）。スイスの政党制度は高度に分権化されているため、推薦プロセスでは地方政党支部が主要なゲートキーパーとなる（ラドナー 2021 年）。

スイスの自治体は、議会選挙に自由記載式 PR 選挙制度を採用している。選挙に参加した市民は、政党の投票用紙を受け取る。各投票用紙には、候補者の名前といくつかの経歴（チューリヒの自治体では年齢、職業、現職）が記載された政党リストがある。有権者は政党リストを選択し、選好票を配分するためのいくつかの選択肢がある：(a)何も変更せずに政党リストに投票し、そのままの投票を行う、(b)政党リストを選択し、選好票を個々の候補者に配分することで、あらかじめ定義された候補者の順位を変更する。(c)空の投票用紙を選択し、政党リストの候補者で埋めることもできる。

FIGURE 1 Example Ballot of the 2014 Municipal Elections in the City of Zurich

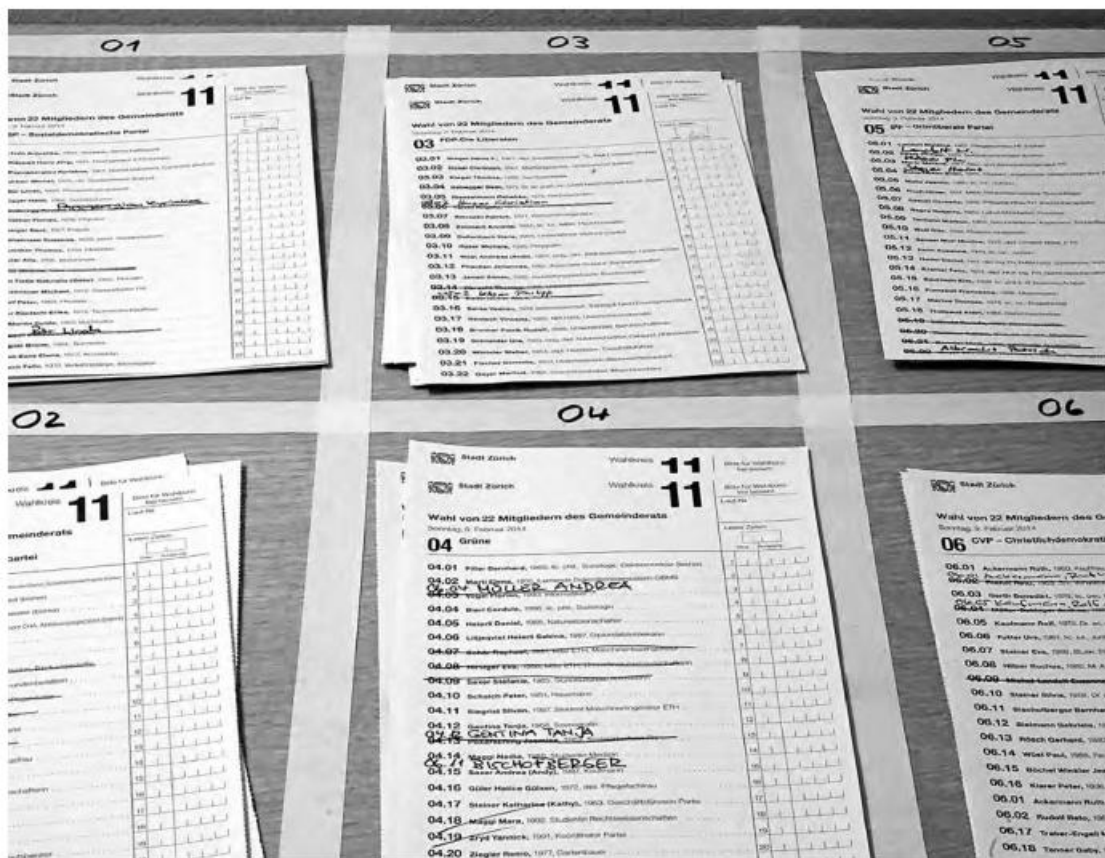


図 1 2014 年チューリヒ市議選の投票用紙例

有権者は政党の候補者（内部優先票）と他政党の候補者（外部優先票）に優先票を配分可能。候補者に追加票（プラス優先票）を与えたり、候補者を投票用紙から除外（マイナス優先票）したりできる。優先票の最大数は選挙区の議席数に対応し、1 候補者に投票できるのは最大 2 票まで。

国会議席は得票率に基づいて政党に配分され、各政党の中で最も得票数が多い候補者が選出される。候補者の総得票数は、修正前の投票による票と個人優先投票による票で構成。候補者は、政党リスト全体の選択を促すか、阻止する重要な役割を持つ。気候補者が政党リスト全体を選ばせることで、政党の議席獲得可能性が向上。優先投票により候補者リストが変更されると、政党の得票数に影響が出る。

スイスの選挙制度は、候補者の当選可能性を詳細に測定可能であり、有権者の差別を分析するのに適している。地方選挙は情報量が少ない環境で行われ、多くの候補者は無名で、有権者は投票用紙から得られる限られた情報を頼りに判断する。選挙結果に影響する観測可能な要因をコントロールしやすい仕組みが特徴。

(2)他国との比較

スイスの選挙制度に基づく本研究は、他国にも適用可能であり、多くの選挙制度で見られる偏見や政党戦略のメカニズムを示している。候補者の名前は、特に地方選挙において重要な要素であり、有権者は名前から候補者の背景（例：移民）を推測し、それが投票行動に影響を与えることがわかっている。これは、情報量が少ない選挙環境で顕著であり、スイス以外の国でも同様の影響が確認されている。

スイスの選挙制度は、有権者に政党リストを修正し候補者個人に直接票を配分する柔軟性を提供している。一方、クローズド・リスト型や多数決制度ではこのような柔軟性がなく、有権者の偏見が政党への支持そのものに直結しやすい。そのため、スイスで得られる知見は、他の選挙制度においてより顕著な影響を持つ可能性がある。

また、スイスでは政党間の二極化が中程度から高いため、有権者の政党間移動が抑えられ、差別的投票行動の影響が過小評価される可能性がある。しかし、移民の割合が高く、反移民感情が比較的低いというスイス特有の条件により、選挙差別と戦略的政党行動の推定値が下限に位置していると考えられる。

全体として、スイスの文脈を超えて本研究結果は多くの国や選挙制度における有権者差別と政党戦略の理解に貢献する。ただし、候補者中心で二極化が激しい制度では、スイスのような間接的な政党差別のメカニズムが異なる形で作用する可能性があり、その点での慎重な検討が求められる。

三. 実証的戦略

候補者を長期にわたって追跡し、政党が過去の選挙パフォーマンスにどのように反応するかを探る。この目的のために、投票用紙に記載された候補者の特徴（所属政党、氏名、年齢、職業、学歴、現職）一式とともに、カントンの統計局から公式の選挙結果を入手した。

(1)優先投票の定義

選挙における投票用紙の候補者が受け取った票の総数は、内部選好票と外部選好票を修正されていないリスト票に加えることによって計算することができる。

$$v_{ibt}^{total} = v_{bt}^{list} + v_{ibt}^{int} + v_{ibt}^{ext}.$$

(2)政党の反応を測定する

政党は候補者の指名を決定し、候補者リストに掲載された候補者を宣伝する手段を持っているため、重要なゲートキーパーである。政党は投票用紙のリスト順位を決定し、これが政党の反応を測る最初の指標となる。党のリストで上位にあれば知名度が上がり、有権者は党支部の代表がこの候補者を推薦していると考えられるようになる。したがって、名簿順位は候補者の当選の重要な予測要因となる (Lutz 2010)。しかし、候補者が当選する可能性は、名簿の順位だけでなく、立候補する名簿にも左右される。

(3)候補者名のコード化

投票用紙に記載されている姓によって、移民の経歴を持つ候補者を特定する。この戦略の利点は、多数の候補者 (9,000 人 以上) をコード化し、分析に含めることができることである。

1964 年までスイスの自治体で登録されたすべての姓が登録年と自治体名として登録されているスイス姓名登録簿 (RSS) を使用する。ウェブのスクレイピングを使用して、候補の名前が RSS に最初に登録された年を抽出する。1939 年以前に登録された場合は典型的なスイス名、1939 年以降に登録された場合、または RSS にまったく掲載されていない場合 (1964 年以降に登録された場合) は外国人風の名前に候補名を分割した。1939 年を閾値として選んだのは、移民のパターンが第二次世界大戦中と戦後で大きく変化したからである。

移民出身の政治家を研究する別のアプローチとしては、目に見えるマイノリティに焦点を当てるか (Dancygier 2017)、国会議員のプロフィールをオンラインで明示的に検索して移民の背景を調べる (Van De Wardt et al.) しかし、スイスの文脈では問題がある。①投票用紙には写真が掲載されておらず、市議選に立候補する候補者は一般市民の間ではほとんど知られていない。②大きな移民グループ (西欧/南欧、バルカン半島) の出身者は、しばしば身体的特徴では識別できないが、通常は名前で識別できる。③候補者のオンライン・プロフィールを検索し、移民の背景を示す証拠を見つけることで、より直接的な測定が可能になるが、チューリヒの地方選挙の候補者については、候補者はほとんど選挙運動を行っておらず、メディアに登場したり、何らかの形でオンライン上で存在感を示したりするのは一部の有力候補者だけであるため、有権者だけでなく研究者にとってもこの情報の検索は困難。

(3)識別方法 (Identification)

この論文では、移民背景を持つ候補者に対する有権者の差別と政党の対応戦略との関連を分析するため、以下のような統計モデルを採用している。

①モデル設計

$$\widehat{votes_{ijbt}} = \beta_{name} x_{ijbt} + \beta_k X_{ijbt} + \gamma_j + \gamma_t + \gamma_b + (\gamma_j * \gamma_t) + \varepsilon_{ijbt}, \quad (2)$$

応答変数（従属変数）：候補者が得た総得票数、内部・外部の選好票数。

主な説明変数：「外国的な名前かどうか」（Foreign-Sounding Name）。移民背景の指標として使用。

制御変数：候補者の年齢、性別、職業、学術称号、現職かどうか、選挙リストでの順位など。

固定効果：地区、年、政党リスト、および年と地区の相互作用効果を導入し、地域や時間の影響を統制。

このモデルにより、移民背景の候補者が票を得る際にどの程度不利であるかを定量的に評価。

②政党の反応測定

$$\begin{aligned} \widehat{Party\ reaction_{ijbt}} = & \beta_{name_t} x_{ijbt} + \beta_{jumps\ t-1} x_{ijbt} \\ & + \beta_{place\ t-1} x_{ijbt} + \beta_k X_{ijbt} + \gamma_j + \gamma_t + \gamma_b \\ & + (\gamma_j * \gamma_t) + \varepsilon_{ijbt}. \end{aligned} \quad (3)$$

政党が候補者の前回選挙の成績（例：得票数、リスト内のジャンプ数）をどのように考慮し、その後の候補者リストの順位を調整するかを分析。

応答変数：候補者が「当選が期待できるリストの順位」に配置される確率、またはリスト順位自体。

③データと手法

分析データ：スイス・チューリッヒ州の地方選挙（2006-2018年）、9,000人以上の候補者の情報。

手法：負の二項回帰（Negative Binomial Regression）を使用して票数の分布をモデル化。また、リスト順位の分析には OLS 回帰や Logit 回帰を採用。

四. 結果

(1)移民出身者の割合の低さ

FIGURE 2 Underrepresentation of the Immigrant-Origin Population in the Canton of Zurich

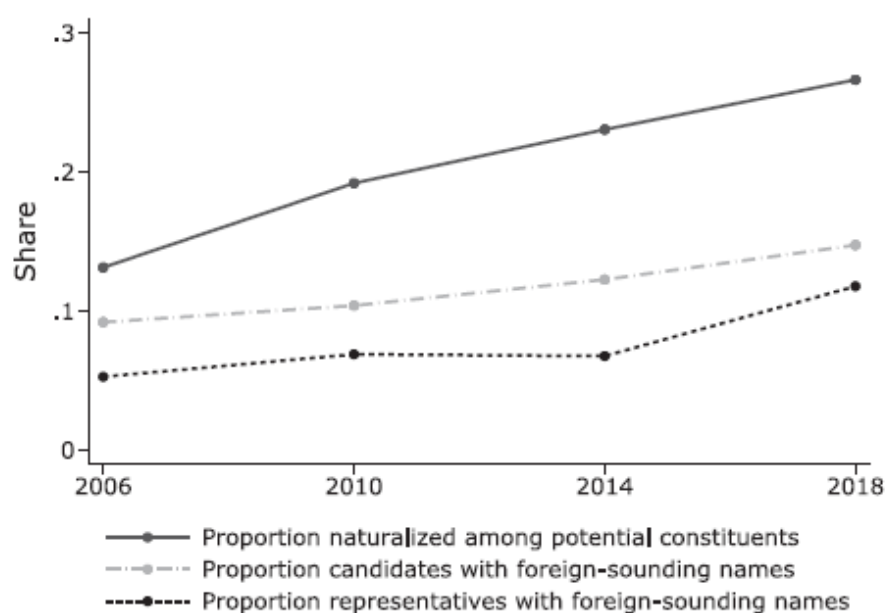


図 2 は、チューリヒ州の地方議会における外国名を持つ候補者と代表者の平均的な割合と、1991 年以降の選挙人全体に占める帰化人の割合を比較したものである。移民出身の政治家、つまり外国風の名前を持つ候補者や選出国會議員が相対的に増加しているにもかかわらず、スイスの地方政治における代表格差が拡大していることは明らかである。この格差の一因が、有権者の差別を助長する可能性のある政党党首の行動にあるのかどうかを説明することを目的とする。

(2)選挙差別

表 1 は、サンプルにおいて選挙差別が蔓延していることを示している。

TABLE 1 Voter Discrimination of Candidates with Foreign-Sounding Names

	Internal Preference Votes		External Preference Votes		Total Votes	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
Foreign-sounding name	-0.081** (0.013)	-0.053** (0.012)	-0.359** (0.039)	-0.156** (0.025)	-0.081** (0.012)	-0.048** (0.010)
Age at election		0.008** (0.002)		0.006 (0.004)		0.004** (0.001)
Age squared		-0.000** (0.000)		-0.000** (0.000)		-0.000** (0.000)
Female		0.009 (0.008)		-0.012 (0.017)		0.003 (0.007)
Incumbent		0.359** (0.012)		1.346** (0.022)		0.381** (0.010)
List position		-0.007** (0.000)		-0.043** (0.001)		-0.002** (0.000)
Precumulated		0.143** (0.012)		0.340** (0.026)		0.369** (0.011)
In training		0.012 (0.021)		0.139** (0.045)		0.025 (0.018)
Retired		-0.112** (0.034)		-0.292** (0.070)		-0.052† (0.027)
Academic title		0.024 (0.019)		0.042 (0.050)		0.016 (0.016)
Constant	4.074** (0.069)	3.820** (0.077)	4.880** (0.203)	4.659** (0.189)	5.260** (0.067)	4.747** (0.068)
Inalpha	-1.566** (0.014)	-1.799** (0.015)	0.220** (0.011)	-0.540** (0.015)	-1.755** (0.015)	-2.089** (0.016)
Observations	13,125	13,125	13,125	13,125	13,125	13,125
ISCO fixed effects	-	✓	-	✓	-	✓
List fixed effects	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Year fixed effects	✓	✓	✓	✓	✓	✓
District fixed effects	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Year × district fixed effects	✓	✓	✓	✓	✓	✓

Notes: Negative binomial regression. Robust standard errors in parentheses. Last name defined as foreign sounding if registered in the RSS after 1939.

† $p < .10$; * $p < .05$; ** $p < .01$.

移民背景を持つ候補者（外国的な名前を持つ候補者）は、スイス的な名前を持つ候補者よりも平均で 57 票（約 5%）少なく得票していることが判明した。この差別は内部選好票および外部選好票の両方において確認されている。リスト順位が低い候補者は不利であり、現職の候補者は大幅に有利である一方、中年層が最も好まれる傾向が

ある。女性候補者は選挙上の不利益を受けない。

この結果は複数のロバストネスチェックを通じて確認されている。得票数の対数値や名前の親しみやすさ、人気度を考慮しても結果は一貫しており、右派政党の支持者で差別が特に顕著である。西洋系・非西洋系の外国的な名前を持つ候補者の双方に差別が見られた一方、内部移住者には不利益が確認されていない。これにより、移民背景の候補者の不利益は名前に基づく差別によるものであると示唆される。また、名前に基づく差別が次回選挙への立候補意欲に影響しないことも確認された。

(3)党の戦略と候補者のパフォーマンス

TABLE 2 Party Reactions to Previous Candidate Performance

	Promising Position				List Position			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
Foreign-sounding name	−0.386* (0.163)	−0.330 [‡] (0.182)	−0.044 (0.192)	−0.043 (0.192)	1.107* (0.527)	0.427 (0.445)	−0.030 (0.436)	−0.061 (0.445)
Age at election	0.094** (0.025)	0.072** (0.027)	0.056* (0.028)	0.056 [‡] (0.028)	−0.059 (0.079)	0.082 (0.061)	0.121* (0.058)	0.125* (0.058)
Age squared	−0.001** (0.000)	−0.001** (0.000)	−0.001* (0.000)	−0.001* (0.000)	0.001 [‡] (0.001)	−0.000 (0.001)	−0.001 (0.001)	−0.001 (0.001)
Female	−0.001 (0.100)	0.115 (0.116)	0.222* (0.120)	0.223 [‡] (0.120)	0.190 (0.347)	−0.170 (0.276)	−0.395 (0.266)	−0.387 (0.266)
In training	0.147 (0.354)	0.340 (0.426)	0.554 (0.516)	0.529 (0.518)	0.636 (1.294)	1.093 (1.209)	0.345 (1.115)	0.377 (1.115)
Retired	−0.512 (0.422)	−0.159 (0.401)	0.002 (0.434)	0.024 (0.436)	2.869* (1.167)	2.279** (0.823)	1.716* (0.758)	1.718* (0.761)
Academic title	0.347 (0.268)	0.518 (0.334)	0.505 (0.347)	0.508 (0.348)	−2.173 [‡] (1.223)	−0.777 (0.989)	−0.667 (0.971)	−0.658 (0.970)
List position _{t−1}		−0.240** (0.014)	−0.309** (0.018)	−0.308** (0.018)		0.635** (0.020)	0.716** (0.021)	0.716** (0.021)
List jumps _{t−1}			0.234** (0.023)	0.228** (0.023)			−0.363** (0.039)	−0.355** (0.040)
Foreign Name × List jumps _{t−1}				0.063* (0.036)				−0.094 (0.118)
Constant	−5.578** (0.958)	−4.272** (1.114)	−3.546** (1.154)	−3.557** (1.155)	7.921** (2.488)	−0.136 (1.961)	−1.583 (1.902)	−1.634 (1.900)
Observations	3610	3610	3610	3610	3610	3610	3610	3610
ISCO fixed effects	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Ideology	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
List fixed effects	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Year fixed effects	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
District fixed effects	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Year × district fixed effects	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

Notes: Logit in models 1–4; OLS in 5–8. Robust standard errors in parentheses. Last name defined as foreign sounding if registered in the RSS after 1939.
[‡]p < .1; *p < .05; **p < 0.01.

政党は、スイス的な名前を持つ候補者が持つ競争上の優位性を考慮し、リスト順位を調整していることが明らかになった。外国的な名前を持つ候補者は、有望なリスト順位（当選が期待される位置）に配置される確率が 5.3%低い。また、過去のリスト順位だけではスイス的な名前を持つ候補者とのギャップを完全には説明できないが、候

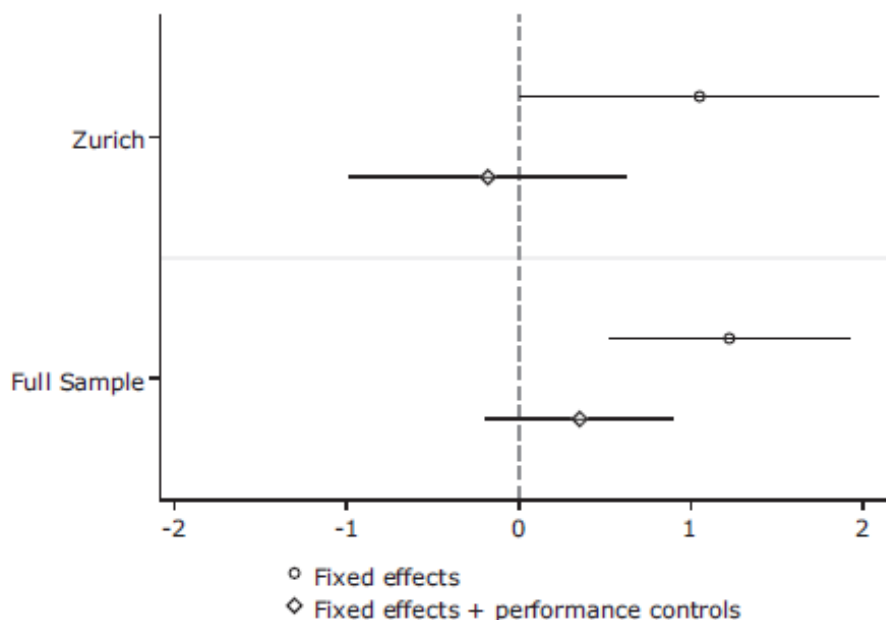
補者の選挙パフォーマンスを考慮すると、このギャップは統計的に有意でなくなる。これにより、政党が選挙パフォーマンスに基づいて候補者を公平に評価していることが示唆される。

しかし、初めて選挙に出馬する候補者については、外国的な名前を持つ候補者が有望なリスト順位に配置される可能性が低いことが確認された。これは、政党選考者が差別を予測した行動、または純粹に味覚的な差別に基づく行動である可能性がある。このような間接的な差別は、移民背景を持つ候補者が選挙に参入する際に既に不利な状況を強化している。

さらに、外国的な名前を持つ候補者は、次回選挙への出馬率や高位選挙への進出率においてスイス的な名前を持つ候補者と差がないことも明らかになった。この結果は、有権者の差別的行動によって移民背景を持つ候補者が間接的に不利になる一方で、政党が直接的に差別していないことを示している。

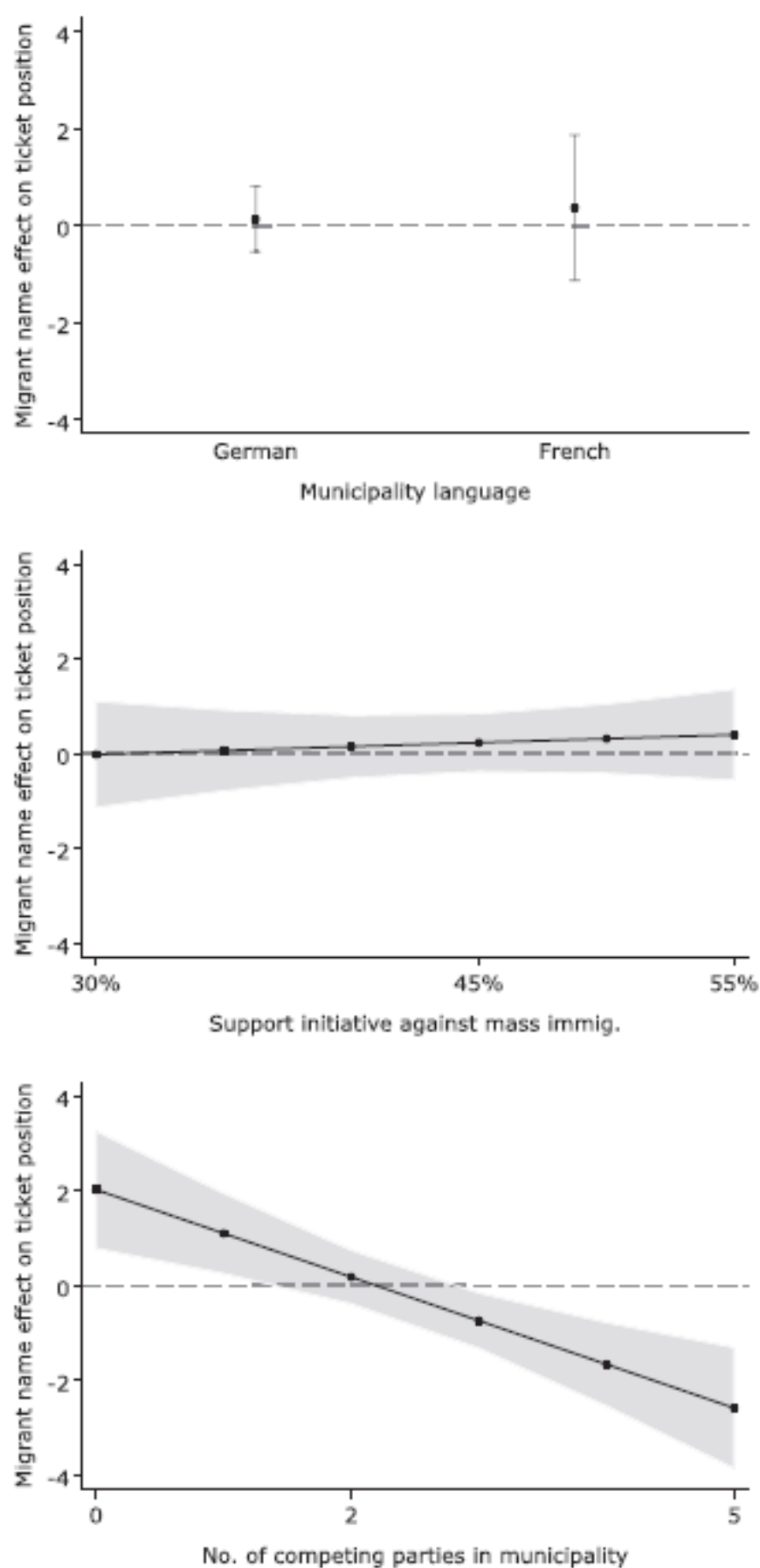
(4)外部妥当性とコンテキストの役割

FIGURE 3 Party Reaction beyond the Canton of Zurich



Notes: Effect of candidates' foreign-sounding name on ticket position. OLS. Point estimates and 95% confidence intervals are displayed.

FIGURE 4 Party Reaction with Performance Controls, by Local Context



チューリッヒ州以外の地域でも本研究の結果が当てはまるかを検証するため、スイスの 8 つの州にまたがる 16 の自治体から 8,650 人の候補者の選挙データをデジタル化し、多言語地域やフランス語圏も含めた分析を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

まず、有権者差別の程度は自治体ごとに異なるものの、チューリッヒ州はスイス全体の平均的な水準に位置しており、特異な例ではないことが確認された。また、2015 年のスイス国政選挙データを用いた検証でも同様の結果が得られた。

次に、政党の行動についての主要な結果も、他の地域を含めた分析で一貫していることが示された。移民背景を持つ候補者は、スイス的な名前を持つ候補者と比較してリスト順位が低くなる傾向がある。しかし、候補者の過去の選挙成績を考慮すると、この不利は消失する。

さらに、地域ごとの状況が政党の行動に与える影響を評価した結果、排外主義の程度、政党間競争の激しさ、主要言語の違いが候補者のリスト順位に与える影響が示唆された。具体的には、排外主義が強い地域では移民背景の候補者への差別がわずかに増加し、競争の少ない地域では不利が強まる一方、競争の激しい地域ではむしろ移民背景の候補者が有利に扱われる場合があった。この正の差別は主に左派および中道政党によるものであり、右派政党ではそのような傾向は見られなかった。

総じて、サンプルを他の州や言語地域に拡大しても、有権者差別と政党行動に関する主な結果が支持された。また、社会的・政治的要因は政党の行動において限定的な影響しか持たないことが確認された。

五. 結論

本研究は、移民背景を持つ市民が政治領域で依然として過小代表されている理由を探究し、有権者の差別と政党の候補者選定戦略がその重要な要因であることを明らかにした。2006 年から 2018 年のスイス地方選挙における 9,000 人以上の候補者データを分析した結果、有権者は移民背景を持つ候補者を差別しており、政党はその差別的な投票行動に基づき、候補者選定戦略を調整することで、構造的な不利益を固定化していることが分かった。この行動は必ずしも偏見や悪意を伴うものではないが、移民背景の候補者に「不均衡な」不利益をもたらしている。

さらに、初回出馬の候補者に対する差別や、候補者プールを変える要因（候補者の脱落率や上位選挙への進出率）の影響がほとんど見られないことを確認した。追加の選挙データを用いた分析により、結果がスイス全体で一貫していることも明らかにし

た。また、地方の政党間競争が強い地域では、移民背景の候補者がむしろ有利に扱われる傾向があることも示唆された。

本研究は、政党が候補者の選挙パフォーマンスや有権者行動を考慮して戦略的に候補者を配置していることを示し、有権者差別が選挙戦略にどのように影響するかを明らかにした。この知見は、選挙差別を減らすためには有権者差別への対応が重要であることを示唆している。一方で、政党はすでに多様性を促進する力を持っており、民主主義の平等性を支持するのであれば、少数派候補者に実質的な選挙機会を提供すべきである。

最後に、本研究にはいくつかの限界がある。まず、政党選考者の動機や信念を直接測定しておらず、その行動を観察するにとどまっている点である。また、政党の内部組織やリソースの制約が候補者選定に与える影響については、さらなる研究が必要である。さらに、女性で移民背景を持つ候補者が特に不利であるという交差的不利益の存在も確認された。このようなパターンの背景にある政党選考者の判断基準を解明することも、今後の課題である。

六. 自分の研究との関連

(1)研究構想と結論の活用可能性

APJS 論文は、移民背景を持つ候補者が有権者の差別と政党の戦略により政治的に不利な状況に置かれる構造を分析している。この論文の構想や結論は、日本の移民政治家研究にも以下の点で活用可能である。

①有権者差別と政党行動の連鎖

日本でも、有権者の偏見が政党の候補者選定に影響を与えている可能性がある。このモデルを参考に、日本における移民候補者への不利な構造を検証できる。

②初回出馬候補者への差別

移民背景の初回出馬候補者が不利な扱いを受ける可能性が、日本の地方選挙でも検証可能である。

③政党間競争の影響

政党間競争が移民候補者のリスト順位や当選可能性に与える影響を、日本の文脈で分析する仮説を構築できる。

④適用時の留意点

日本では、偏見の基準が「外国的な名前」以外の要素（例：帰化記録や地域の文化的背景）に基づく可能性があるため、仮説の調整が必要である。

(2)研究方法の活用可能性

APJS 論文の方法論は、以下の点で参考にできる。

①データ分析手法の応用

候補者の背景や得票データを用いた固定効果モデルや回帰分析は、日本の地方選挙データにも適用可能である。

②ロバストネスチェック

異なる分析条件や地域別比較を行うことで、結果の信頼性を高められる。

③定性研究との統合

APJS 論文の定量分析を基に、日本特有の文脈を反映した質的研究（インタビューや参与観察）を加えることで、移民候補者の政治参加をより深く理解できる。

④留意点

日本の選挙制度や政党文化（例：派閥や地域重視）を考慮し、柔軟に手法を調整する必要がある。